

平成29年度 租税教育実践事例(第3学年)

登米市立津山中学校

主幹教諭 白石 善郎

1 単元名 「国民生活と福祉」

2 単元の目標

- ・国民生活と福祉の向上を図るうえでの国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について、租税の意義と役割、納税の義務を通して理解させる。
- ・社会保障や経済に関して、資料の活用を図り、自分たちの考えをまとめ、発表させる。

3 単元について

現代の日本は国民主権であり、全ての国政は国民のために行われる。そして、人権の保障もなされている。これらの日本の根幹となる部分を維持していくためには、国民それぞれが協力し合わなければならない。その最も重要な部分として、社会資本やサービスを充実させるために必要となるものが税である。言い換えれば、税によって国民の生活が守られている。

そこで、豊かな社会を実現していくためには国民が協力して資金を出し合うことが必要であり、そのために税が国民の義務となっていることを理解させたい。そして、社会を支えるのは国民一人一人であることを確認させたい。さらに、このことによって納税だけではなく、その税の使途を決定する内閣や国会が国民の意思を尊重しなければならないことに気づかせたい。

4 指導計画(6時間扱い、本時1/6)

| 学習時間 | 題材名 |
|------|----------------|
| 第1時 | 政府の経済活動と租税(本時) |
| 第2時 | 政府の役割 |
| 第3時 | 社会保障のしくみ |
| 第4時 | 少子高齢化と財政 |
| 第5時 | 世界の中の日本経済 |
| 第6時 | 学習の補充と発展 |

5 本時の指導

(1)題材名 「政府の経済活動と租税」

(2)ねらい

- ・身近な事例を通して、税に関する関心を高めることができる。(関心・意欲)
- ・税の必要性について学習を通して理解することができる。(知識・理解)

(3)指導にあたって

国民生活を円滑に豊にしていくためには税が不可欠であることを自覚させたい。そのため、実際に税を用いて作られている施設や設備などをあげさせることによって身近なものとしてとらえさせたい。そこから、義務化する必要性について考えさせたい。

(4)評価

- ・身近な事例を通して、税に関する関心を高めることができたか。(関心・意欲)
- ・税の必要性について学習を通して理解することができたか。(知識・理解)

(5)指導過程

| | 学習活動と予想される生徒の反応 | 教師の支援 |
|--------|---|---|
| 導 入 | <p>1 登米市内でみんなのためにあるものをあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園，学校，道路，交番，消防署，コンビニ，スーパー，幼稚園など <p>2 みんなのためにあるものは誰が経営しているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国，市，社長など | <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの意見をあげさせる。登校するまでの間にあるものなどを思い起こさせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本や公共サービスのものについて考えさせる。 ・市のホームページを利用して確認する。 |
| 展 開 | <p>3 国民全体のために使うお金はどのように準備すればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金持ちが出す，税として集める，必要な人が出す，国会議員が出すなど <p>4 国民生活に欠かせない税の種類を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接税と間接税の違いや国家予算の税収を知る。 <p>5 年収に差がある場合に所得税の課税割合はどうしたらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ割合，金持ちは多く払う，少ない人は払わなくていいなど <p>6 累進課税制度について確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが必要なものはみんなが出しあわなければならないことに気付かせる。教科書が無償であることなどにも触れたい。   <ul style="list-style-type: none"> ・8%の消費税も全国から集まれば大きな額になることなどに気付かせたい。 ・年収に差があった場合に生活に必要な費用をどうしたらよいかを気づかせる。 ・累進課税の割合はプリントで配布する。 |

| | | |
|----------------|---|---|
| | <p>7 国民から集めた税をどのように使っていったらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • みんなのため、困っている人に使う、無駄にしてほしくないなど | <ul style="list-style-type: none"> • 自分たちも消費税などで納税している負担者であることを自覚させて、考えさせる。  |
| <p>終 結</p> | <p>8 税の使い方についての意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 質問や反対意見があれば発表する。 <p>9 次時の予告</p> | <ul style="list-style-type: none"> • なるべく多くの意見を取り上げる。 |

6 成果と課題

【成果】

税に対する意識として以前よりも必要性を強く感じたようである。特に社会資本で自分たちが知っているものよりもはるかに多くのものが税によって成り立っていることに気付いたようである。

また、自分たちが納めている消費税のみならず、家庭内でも親や祖父母、兄弟などが納めている所得税やその他の税についてもどのような使われ方をしているかという関心が出てきたようである。

授業後にも税に関する質問をする生徒がいるなど税への関心や詳しく知りたいという欲求が生まれている。

【課題】

税に対しての関心を持ち、より深く学びたいという生徒がいる一方で、依然として税は「取られる」ものという意識で悪いイメージを持っている生徒がいることも事実である。今後の授業で引き続き、必要なものであることを考えさせていきたい。

また、今回の実践では教師主導の授業で行ったが、機会があれば税務署による租税教室の利用も今後行っていきたい。また、ビデオやホームページなどもタブレットの導入に伴い、生徒自身が活用すればさらに効果的に身近に感じさせることができたのではないと思う。

今後は税の行方に関心を持たせながら将来の社会資本を考えさせながら、財政政策について調べさせたい。